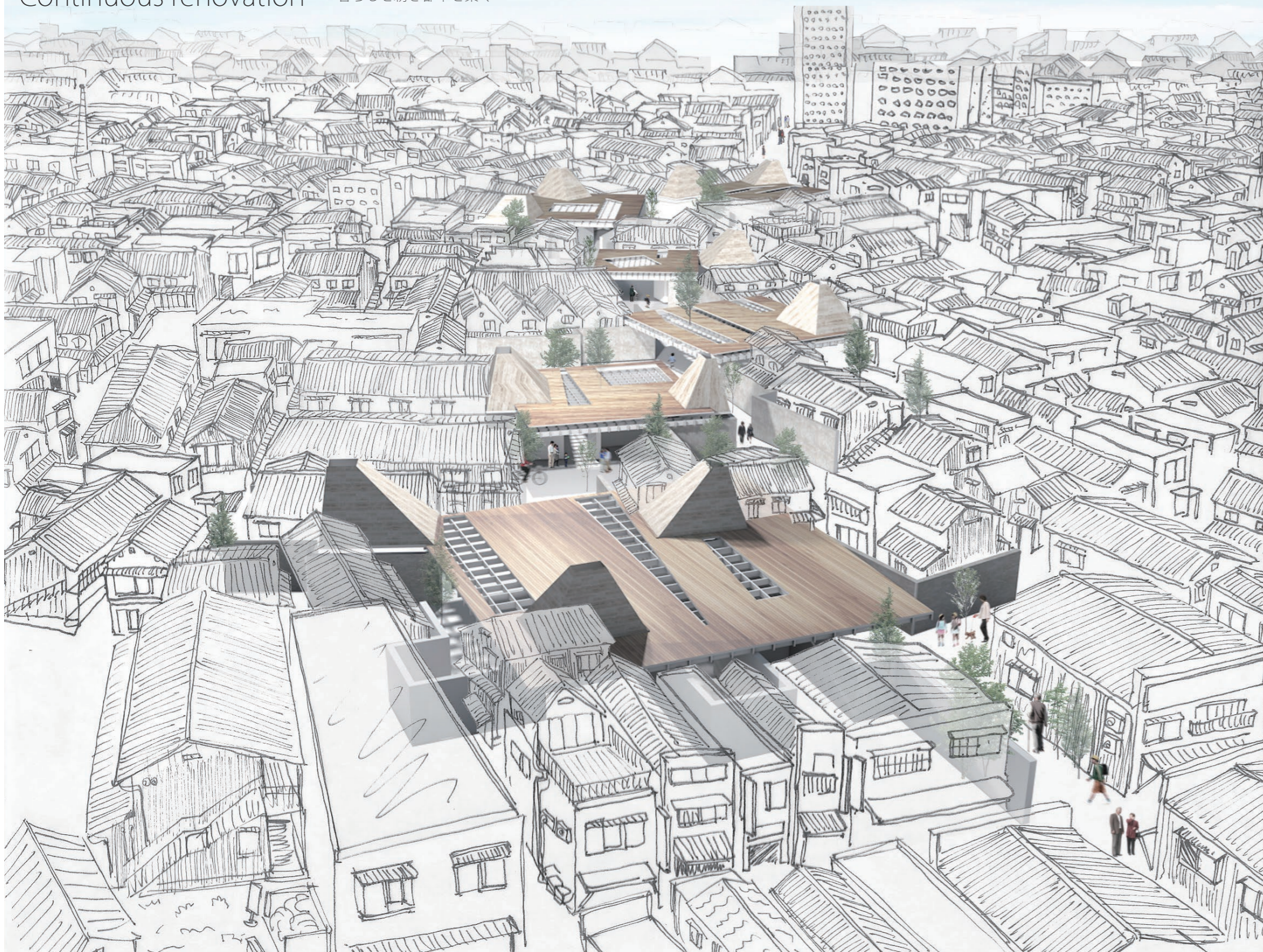
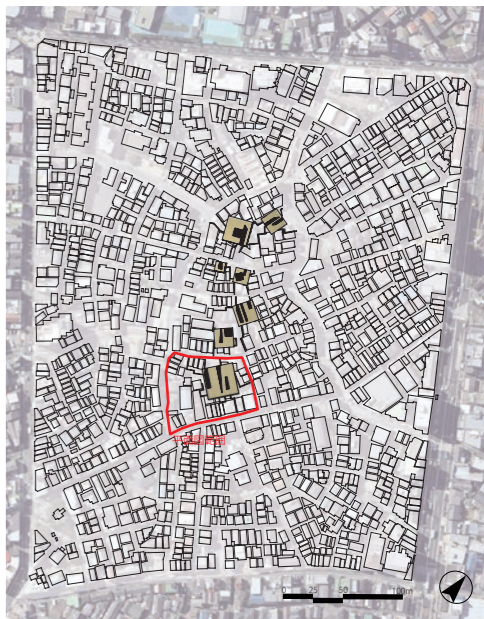


Continuous renovation ~暮らしを紡ぎ都市を繋ぐ~



Site 木密「墨田区京島」と「壊して繋がる」新たなリノベーションの形態

敷地は墨田区京島。昭和から現在にかけて木造密集地のまちづくりのモデルとなってきた地域である。ハードとしての建築は密集しているが元来あった近隣コミュニティというソフトの過疎化が進み「密集の中の空洞」といった現象が起きている。下町としての京島は、長屋の生活形式が織りなす路地空間のアクティビティに富んだ風景が広がっているが、木造密集地としての京島は、倒壊危険区域、火災危険区域など様々な危険区域の上位に位置している現状がある。ハードとソフトの間に大きなギャップが生じ、加えて所有による複雑な利権関係によって身動きできない状況にある。既存の修復型まちづくりではなく、ハードとして壊すべき部分は壊しながら、都市の防災機能を向上させると同時に京島の「暮らし」といったソフトを紡ぎ新しい将来像を描く。



Plan 「日常時」と「災害時」を繋ぐ入れ子状の空間構成



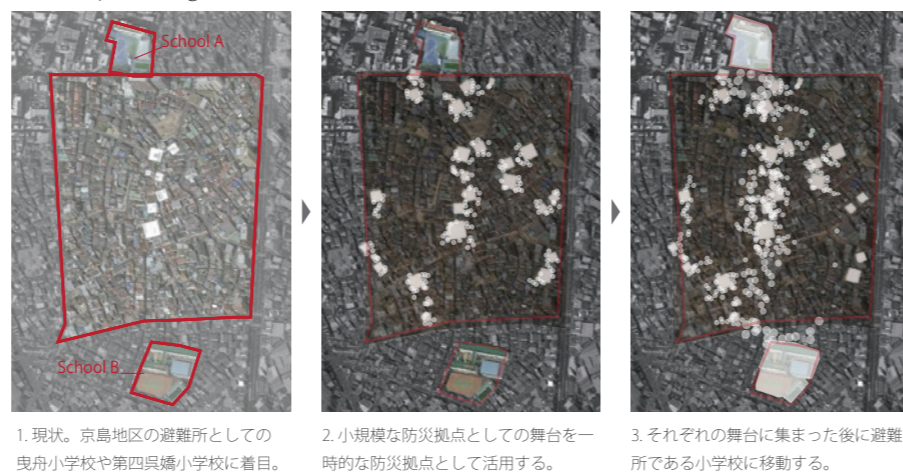
Concept diagram 「壊す」事で「創られる」防災

現状の空き家・空き地のプロット



1. 現状。点にする空き家、準空き家、空き地をポテンシャルとして捉える
2. 解体。空き家に解体用の足場構築。準空き家に耐震壁構築する。
3. 組み替え。空き家解体。足場はそのまま残され、うだつ(防火壁)へと組み替えられる。うだつは石膏ボードによってできている。

Master planning 繋がる都市防災・生まれ変わる木密



Perspective



Environmental proposal 生活インフラの共有による災害時への対応

